

▶▶▶ 南紀熊野ジオパークと連携した防災教育

南海トラフ地震に備え、地域の悲しみと 教訓を未来へつなぐシンポジウムを開催

▶ プロジェクトメンバー

- 此松 昌彦（教育学部・災害科学・レジリエンス共創センター）
 本郷 宙軌（災害科学・レジリエンス共創センター）
 今西 武（災害科学・レジリエンス共創センター）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

南紀熊野ジオパーク推進協議会
 和歌山地方気象台

プロジェクトの背景

和歌山大学では和歌山県南部で2014年に認定された南紀熊野ジオパークを支援しており、特に2021年3月に和歌山大学と南紀ジオパーク推進協議会及び和歌山県の3者で連携協定を締結した。そこではそれぞれが持つ資源を効果的に結びつけることでジオパークによる地域の振興につなげていくことになり、具体的にはジオパークセンター研究員による大学での講義や新たな教材開発、共同研究、人材育成など、主に教育・研究・地域振興の分野で連携していくことになった。その後、和歌山大学では南紀熊野ジオパークセンターの研究員である本郷宙軌氏を災害科学・レジリエンス共創センターの客員教員として迎え、防災教育等の共同研究を行ってきた。

プロジェクトの目的

南紀熊野ジオパークの範囲は和歌山県南部で上富田町・白浜町・すさみ町・串本町・古座川町・那智勝浦町・太地町・新宮市・北山村の9自治体と奈良県十津川村の一部を含めた範囲である。この地域では以下のような地質遺産をもとに、独特な自然や世界遺産になるような文化が形成されている。ジオパークでは見どころとなる場所をジオサイトとして公開し、ジオパークガイドが主体的に地元の人たちに地質遺産の素晴らしさを伝えて、住民にジオサイトを保護する大切な資源として認識してもらう。さらにジオパークは観光客にはジオツアーを開催し、地域の成り立ちをジオ、自

然と文化の関連について楽しみながら、地域のファンになってもらいながら持続可能な地域にしようというプログラムである。

この地域は地質的には中生代後半から新生代にかけての堆積した堆積岩やマグマからできた火成岩からなる。詳しくはプレートの沈み込み帯によって形成された付加体の堆積物、その後に前弧海盆で堆積した浅い海の堆積物、さらにマグマが冷えて形成された火成岩からなり、多様な地質からなり、それがまた紀伊半島南部の独特の地形や景観を作っている。

この地域は降水量が全国的に多く、風水害も多い地域でもある。また南海トラフ地震によって、津波災害が発生している地域でもある。そのような背景のもと災害科学・レジリエンス共創センターでは南海トラフの問題は地域住民や観光客にとっても重要な課題になるため、防災に関する共同研究を行なっている。その中で今年度は日頃の南海トラフ地震や風水害用の防災啓発用教材として地形などを利用した教材について研究し、アウトリーチ活動として防災シンポジウムを行なった。

プロジェクトの活動内容

1. 防災啓発用教材の研究

- 今西武（センター教育研究所アドバイザー）と風水害用の住民向けプロジェクトとして逃げ切るプログラムについて研究し、課題について検討した。
- 地形を利用して立体的に集水域について学べる画像装置のプログラムを研究した。陰陽図や3D陰陽図を

利用して風水害を考える上で重要な集水域について考えられる教材の開発である。

2. 防災シンポジウム

以下のテーマで防災シンポを開催した。

「能登半島地震から南紀熊野で発生する南海トラフ地震を考えるージオパークガイドとして地域の悲しみを伝えることができるかー」

能登半島地震から同じ半島である紀伊半島で起きる南海トラフ地震について考える。将来どのようなことが発生するのかを予測し、教訓を汲み取れば、備えることから開催した。

主催：和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター
協力：南紀熊野ジオパーク推進協議会・和歌山地方気象台（パネル展示 南海トラフ地震臨時情報関係）

対象：一般住民 ジオパークガイド

日時及び会場

2025年3月20日（木：祝日）13時30分開会

南紀熊野ジオパークセンター（串本町潮岬）

講演1：能登半島地震から南海トラフ地震を考える

此松昌彦（和歌山大学）

講演2：「能登半島地震の被災支援」から得た知見による南海トラフ地震への備え

野口和典氏（和歌山県危機管理部）

講演3：能登半島地震におけるダークツーリズムの可能性

井出 明氏（金沢大学）

パネルディスカッション「災害遺構などをのジオサイトを人々に伝えるには」

ここでは上記3人と仲江孝丸氏（南紀熊野ジオパークガイドの会会長）を含めて議論した。

参加者は総勢40名であり、高齢者が多く参加したシンポであった。マスコミ取材は4社からあった。

プロジェクトの成果

防災シンポについてアンケート調査を行ったところ28名から回答を得た。60歳代以上からが多い。

内容については講演1が関心が高く好評であった。また他の公演も次いで同程度での関心であった。パネルディスカッションが少し落ちるようで、まとめ方の工夫が必要だった可能性もある。

自由記述では以下のようなものがあった。

- マスコミからの偏った情報ではない部分を聞いたことが興味深かった。
- 自主防災組織（コミュニティ）の重要性について理解を深めることができた。
- ダークツーリズムという言葉自体を初めて知った。不都合な真実にも向き合う必要があると感じた。

プロジェクトに関するお問い合わせ

災害科学・レジリエンス共創センター

E-mail : bousai@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

